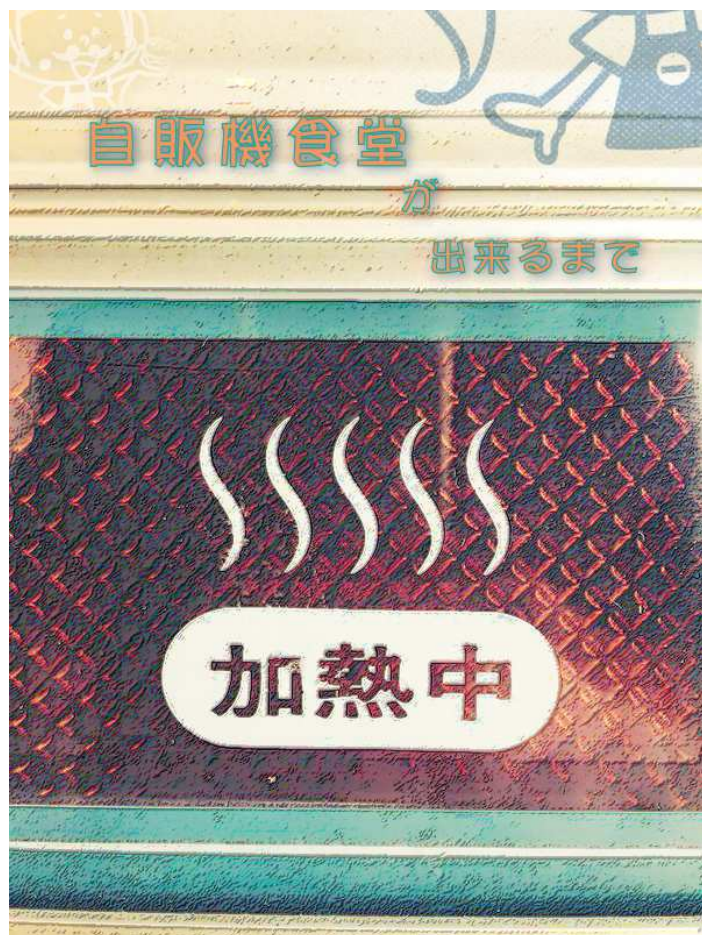


自販機食堂  
ミニ冊子シリーズN03



- 開設年 2014年11月15日
- 運営 株式会社ミトミ
- 所在地 群馬県伊勢崎市富塚町293-3 1F
- 営業時間 10:00頃~24:00  
(2016/05/05現在、作業都合で開店遅延有り)

□設置レトロ自販機

富士電機めん類自動調理販売機	一台
太平洋工業製トースト自販機	一台
富士電機製ハンバーガー自販機	一台
サンデン製瓶コーラ自動販売機	一台
LESTER社製手動式自動販売機	数台

○設置レトロガチャ

- ・バンダイ製BVM-201
- ・ユージン製スリムボーイ

○期間限定設置

- ・10円コインゲーム
- ・じゃんけんマシン
- ・レトロゲーム筐体等

## -自販機食堂が出来るまで1-



□株式会社ミトミ  
「自販機食品部門  
オレンジフード」

□直営店 “自販機食堂”

□納品店舗  
オレンジハット茂呂店、沖之郷店、  
新町店、コルソ、その他

□食品製造工程

手作業、製麺機を用いた麺類の製作。  
時々、ラッキーバーガーを追加する心意気。



□Twitter公式アカウント

@jihanki\_lunch  
(フォローお待ちしております)

□公式ブログ

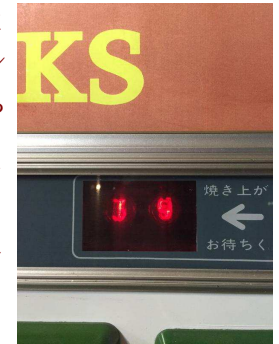
「自販機食堂あれこれ告知処」  
<http://ameblo.jp/jihankisyokudou1173/>

□冊子構成/一部写真提供



@irupa\_na

1970年、大阪で万国博覧会が開催された。岡本太郎による太陽の塔をシンボルに6千万人もの来場者が日本や外国の未来技術を知り、そして期待に胸を膨らませていく。そんな会場内の参加者たちの小腹を満たす機械達が居た事を覚えている人は居るだろうか？



この万博で日本の技術発展を知らしめるべく、野心に燃える二つの企業「富士電機」と「ホシザキ電機」が居た。



彼らはお互いにタックを組み、まだ庶民には手が届かなかった電子レンジを組み込んだ新しい食品自販機を作り上げ「ハンバーガー」の買える世にも珍しい自動販売機は大阪万博の至る場所に設置された。

同じように立ち並んだ新しい缶コーヒーUCCとのコンビネーションも抜群で、ハンバーガー自販機は国内のみならず、海外からの入場者の心まで捕えた。

すぐにボーリング場やゲームセンター等にハンバーガー自販機が置かれ、日清食品が「カップヌードル」を発売した頃には、自動販売機だけで全ての食事が賄えるようになっていく。

-自販機食堂が出来るまで2-



かなりのシェアを抱えた富士電機は74年に「自動販売機無人化店舗」事業を開始し、それまで人件費がかかっていたドライブインは無人営業できるようになった。

4年後に予定されていた成田空港の開港も戦略に加え、貨物運輸のトラック運転手をターゲットにした店舗化が進む。

バラック小屋に自販機を並べていき、後はトイレと防犯カメラ。それから広い駐車場さえあれば、これから来る成田空港からの運輸貨物輸送バブルへの準備は完璧だ。

長距離輸送のトラックが止まりやすいようにカラフルな色合いで立てられたドライブインは、「オレンジハット」と名付けられ、富士電機を中心に自販機ベンダーが成田空港バブル期を支えていく。



そして関越道が北陸自動車道と接続し、新潟~ 東京間の運行需要が増したこの年に群馬の一企業が「無人自販機店舗のオレンジハット」運営に携わる。

当初は織物工場や不動産などを手掛けていた都丸氏

-自販機食堂が出来るまで3-

は、富士電機との交流がきっかけでオレンジハットの管理を任せられ、1980年オレンジハット大正寺店を伊勢崎市にオープンさせた。

めん類にトースト、かき氷にゲーム。真新しい機械達はトラックの運転手だけではなく、地元伊勢崎市の子供たちの憩いの場になっていく。

そして、1985年。前橋IC~ 湯沢IC開通により関越道は全線開通となった。



この年に二店舗目となるオレンジハット渋名店が作られると食品製造にも手を出すようになり、食品部門の「オレンジフード」が設立される。

富士電機にとっても、国内第一位の免許保持率を誇る群馬県の市場開拓は悲願だった。

県内を利根川が流れ、都市部は上毛三山をはじめとする山々に囲まれている。北関東自動車道の設立はまだまだ先の話で、宇都宮~ 前橋間のトラック運輸需要は有人のドライブインが未だに置かれているほど切迫したものだだった。

とにかく複雑な道路と生い茂った道、整備もされていないぬかるんだ道を都丸氏は駆け巡っていく。

-自販機食堂が出来るまで4-



車が無くては生活が出来ない群馬県はオレンジハット以外にもたくさんさんのドライブインが競合し、そして来るのは新たな刺客コンビニとサービスエリア。同じ伊勢崎の「マルイケ食品」と地域を分担し、時にはシェアを競いながら1988年都丸氏は「株式会社ミトミ」を設立させた。

しかし、90年代も後半に入ってくると道路は整備され高速も広がっていき、自動販機設置基準まで改定され、オレンジハットは次々と店を畳むようになりコンビニの天下となっていく。

少子化による施設閉鎖のため、遊園地やボーリング場等に設置されていた自販機まで撤去を余儀なくされ、自販機製造メーカーは飲料自販機や他の事業へと切り替えた。



メーカーのサポートが終わった食品自販機を修理する者は居なくなり、ゲームセンターや駐車場、空地へと「オレンジハット」は姿を変えていく。

1999年、それでも頑張ってきた店舗に鞭を叩くように、変造500ウォン硬貨事件が発生。使っていた自動販売機は新500円対応への切り替えを余儀なくされ、古い

-自販機食堂が出来るまで5-

自販機は変造ウォン対策のため撤去の波が更に加速した。

2000年代に入ると全国的にドライブインは閉鎖され、一部の地域で食品自販機が置かれるようになった。何とか生き延びていた群馬の自販機コーナー達まで「北関東自動車道」の開通により姿を消し、ミトミは企業としてもとてつもない厳しい日々を強いられた。



転機となったのは2005年。「ALWAYS 三丁目の夕日」という昔の日本をテーマにした映画が上映され、当時の自販機や小道具も揃えたこの作品は大ヒットとなり、兼ねてから続いていたレトロブームに火を付ける。

登場した機関車はもちろん、レコードに家電といった物まで注目されるようになり、企業まで当時のパッケージを模した復刻版や昔の廃盤商品の再販していく。懐かしい食品自販機を見た者は、その珍しさに憧れるようになり、それまで注目されることはなかったマスコミまでレトロ食品自販機の姿を追いかけていった。



-自販機食堂が出来るまで6-



時代に乗り遅れないよう、Twitterでの連携やYoutube公式チャンネルの開設など、レトロブームを手にしたミトミの新たな戦略が始まった。2014年、同じ伊勢崎市で営業を続けていた「ビックチェイス坂東店」が店を畳んだ事をきっかけに「食品自動販売機と新しい世代の融合」を模索した新事業をミトミは立ち上げる。

すぐにビックチェイスから、「壊れたスパイラル式スナック自販機」や「動かないカップ麺自販機」そして、めん類自販機を引き取り、かつて家族が経営していた喫茶店を改装して「自販機食堂計画」は動いた。



「月曜から夜更かし」での食品自販機特集で更なる注目も浴び、手助けの手はインターネットからやって来た。デザイナー・イラスト・広報・技術、と暖かい人々の助力は実を結ぶ。2014年11月15日。

群馬県伊勢崎市に「自販機食堂」はオープンした。



-自販機食堂が出来るまで7-

ミトミが運営する実験店舗、という形態のため、店舗設備が不十分な事や自販機の故障が続いた事もあったが、新しい。恐らくは最後になる「新自動販売機店舗」は県内のみならず海外からも注目を浴びていく。



大阪万博から始まった食品自販機の戦略も、今年で46年目。すっかり老朽化してやっと動いている自販機や、新しい技術を組み込まれた自販機。色々な自動販売機が群馬県にはたくさん残されている。



リバイバルブームで復刻版が作られたように、食品自販機も新たな技術で補強されためん類自販機やトースト自販機が姿を見せる時代もやってくるかもしれない。

自販機食堂も2015年に1周年を迎え、最初は3台だけだった自販機も5台稼働し、週末は補充が追い付かないくらいに人々は溢れた。

食品自動販売機を知らない世代、昔懐かしがって訪れた世代、年代の垣根を越えた交流は今日も続いている。

最後の店舗と作られたこの自販機食堂を夢見た新しい世代がやがて大きくなり、新しい食品自販機店舗を思い描くようになるまでこの連鎖が続くようお願いしたい。

-食品自動販売機の年表-



□1970年  
万国博覧会が大阪で開催され「ハンバーガー自販機」を試験販売。

□1971年  
日清食品が「カップヌードル」を発売

□1974年  
富士電機が「自動販売機無人化店舗」事業を開始。太平洋工業が「トーストサンドイッチ自動販売機」を製造。

□1975年  
コンビニエンスストアの24時間営業開始。

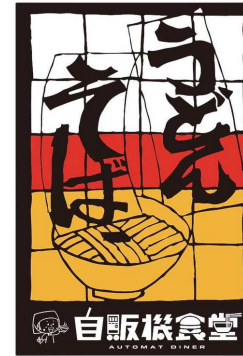
□1980年  
プルトップが切り離し式から現在のステイ・オン式に切り替わる。

□1984年  
富士電機が「スパイラル式スナック自動販売機」を製造。

□1989年  
消費税が初導入され、税率は3%に。



-食品自動販売機の年表2-



□1996年  
「飲料用の500ml以下のペットボトル」が登場する。

□1997年  
消費税が増税され、税率は5%に。

□1998年  
自動販売機の価格が120円に値上げ。

□2004年  
・電子マネー「Edy」「Suica」の登場。

□2007年  
・フジタカと企画会社UMAFUが「らーめん缶」を発売。

□2014年  
消費税が増税され、税率は8%に。  
自動販売機の価格が130円に値上げ。  
ミトミが自販機だけの店舗「自販機食堂」を開始。

□2015年  
自販機食堂一周年、記念煎餅と缶バッチが作られる。

- 参考資料 -

富士電機社史/富士電機技報/日本懐かし自販機大全(辰巳出版)/  
自動販売機の文化史(集英社)/その他